



僕からみなさんに伝えることは

踏み出して投げれば

強く!

ジャイアンツ球場から直線距離で200ほどのところに、駒沢学園があります。野球部には現在、中学生6人と高校1、2年生20人が在籍。高校チームは昨年、大学や社会人チームなど強豪ひしめく1部リーグで高校最上位の6位と健闘しました。中学生はU-15リーグ単独参加には人数が足りないため、OGのお姉さんとの混成クラブチーム「駒沢Rise」として3部リーグで戦っています。

昨年はいざジャイアンツの「ふれあい指導」の環として、部員がジャイアンツ球場を訪問。サブライズで小林捕手から数時間、指導を受けました。撮影は1月。雪が降った直後で、「室内で練習するから」と行き先も知らされずバスで連れ出されたのだとか。突然の小林捕手の登場に驚く「蘇武(そぶ)先生の演技にだまされました」と河合琉葉(りゅが)外野手。素振りやチヤクしてもらったそうで、「膝を曲げて全身を使って打った方がいいよ」とアドバイスいただきました。変化球にも対応できるように「ボールの当て方など、参考にしました」と刺激を受けたそうです。

井上愛海(あい)主将は、捕手ということで具体的な指導を受けました。「前かがみで構えない方が投手が投げやすいとか、送球時の肩の入れ方とかを教えてもらい、(盗塁を)アウトにできるのが多くまりました。熱血な(小林)ファンではな

実技指導でレベルアップ



女子野球応援企画
輝け! ヴィーナスたち
 第3回

小林のサプライズ登場に駒沢女子ナイン感激

女子野球を応援するジャイアンツの取り組み

小林誠司(まこと)捕手(29)が女子選手を指導しエールを送る。昨年、東京ドームでのジャイアンツ戦で流されていた映像を目にしたファンも多いことでしょう。ジャイアンツ、報知新聞社などが後援する関東女子硬式野球リーグ「ヴィーナスリーグ」を紹介する女子野球応援企画「輝け! ヴィーナスたち」。第3回はジャイアンツ球場のすぐ近くに校舎がある名門チーム・駒沢学園女子を訪ねました。

(取材・構成・カメラ=軍司教史)



◆ヴィーナスリーグ 関東女子硬式野球連盟が2002年から主催するアマチュア女子硬式野球リーグで、参加チームは50。約700人が延べ200を超える試合を行う世界最大の女子野球リーグで、今年は4月21日に開幕する。1~4部と中学生以下によるU-15リーグに分かれて主に埼玉県内で試合を行之、昨年は尚美学園大(埼玉)がジャイアンツ杯を獲得した。U-15は今年から報知新聞社杯となる。

かたがたですが身近に感じるようになり、試合でも注目するようになりました」と語ります。部員にとって、貴重な機会になったようです。

ジャイアンツは2006年からヴィーナスリーグを支援。15年からは都内、川崎市内の学童(小学軟式)チームによる「トーナメント・シスタージャビットカップ」も主催しており、女子野球の普及に貢献しています。毎年11月23日にはジャイアンツ球場で「シスタージャビットカップ」の決勝を行っており、ゆくゆくは、姉貴分であるヴィーナスリーグとのコラボも期待されています。

蘇武監督のラストイヤー

駒沢学園女子は、夏の全国高等学校女子硬式野球選手権の第1回大会97年から出場する伝統校。当時はソフトボール部でしたが、2000年に硬式野球部に転向し、多くの代表選手、女子プロ野球選手を輩出してきました。ソフトボール時代から40年以上にわたり指導する蘇武(そぶ)監督にとって、今季は定年前のラストイヤー。井上主将は「優勝はもちろん、二つめの試合を悔いなく戦い、監督に恩返ししたいです」と意気込みをみせています。



駒沢女子高と中学生の「駒沢Rise」のOGたち、野球入部した「駒沢女子」の皆さんが、思い思いのポーズをとってくれました